

主日礼拝2022年11月20日（日）

＜収穫感謝・謝恩日＞

題 「感謝の献げもの」

テキスト：申命記26章1～11節

皆さん、おはようございます。

今日は、収穫感謝・謝恩日の礼拝をこのように捧げることができますことを神さまに感謝いたします。皆様の上に神さまからの平安をお祈りいたします。収穫感謝日は、ご存知のように収穫を神さまに感謝する時です。旧約聖書時代に収穫を神さまに感謝する起源はありますが、日本に伝えられたのはイギリスから現在のアメリカ合衆国のマサチューセッツ州のプリマスに1600年代の始めに宗教的自由を求めて移住して来たピルグリムと呼ばれる入植者の一団が、本国イギリスから持ってきた種子などで農耕を始めたところ、現地の土壤に合わず飢饉による餓死者まで出したところ、アメリカの先住民の助けにより危機を脱して作物の収穫ができ、そのことを神に感謝し、その感謝を表す目的で1621年、今からほぼ400年前に先住民を招いて収穫を祝う宴会を開いたことにあるとわれています。また今日は、日本キリスト教団では信徒の方々の祈りと発案と奉仕により謝恩日とされ儲けられた日で、長く牧師として務められ、隠退された牧師を覚えて守られています。具体的には、隠退された牧師の老後を支える謝恩日献金を捧げています。

先日新聞で連載されている驚田清一さんの折々のことばというコラムに次のようなことばが記されており心に留まりました。

「我々は先祖から土地を受け継ぐのではない。子どもたちから土地を借りるのだ。」(アパッチの格言)。この言葉は、アメリカに古くから住んでいる先住民のことばです。これからの時代にとって考えさせられる言葉だと思われました。未来から今を見て、そして未来へと向かう生き方に生かしていく、今わたしたち人類が必要な生き方だと思わされます。

さて聖書のことばに耳を傾けましょう。

◆信仰の告白

- 1:あなたの神、主が嗣業の土地として得させるために与えられる土地にあなが入り、そこに住むときには、
- 2:あなたの神、主が与えられる土地から取れるあらゆる地の実りの初物を取って籠に入れ、あなたの神、主がその名を置くために選ばれた場所に行きなさい。

3:あなたは、そのとき任に就いている祭司のもとに行き、「今日、わたしはあなたの神、主の御前に報告いたします。わたしは、主がわたしたちに与えると先祖たちに誓われた土地に入りました」と言いなさい。

4:祭司はあなたの手から籠を受け取って、あなたの神、主の祭壇の前に供える。

このことが、旧約聖書の古代に定められた収穫感謝のルーツだと思われます。地の実りは、人間の労苦の実りではあるけれども、それに先立つ、大地の実り、それを創造された神さまからの恵みの贈りものであること。それを感謝し忘れてはならないということ。ここに人間の労苦の喜びと感謝することの大切さが語られていると思います。そして、感謝と喜びの時に自らの歴史を神の前で振り返り、心を新たにして未来へと進み出したのです。

そのためにまず神への礼拝、収穫感謝の礼拝を捧げたのです。それは今日まで続いているのです。

「5:あなたはあなたの神、主の前で次のように告白しなさい。」

これは礼拝での告白です。告白は自らの言葉で、神を信じるイスラエルの民の歴史を振り返り告白するのです。わたしたちも、教会の歴史、それぞれが生きて来た自らの人生の歩みを振り返り、自らのことばで神さまに喜びも時に悲しみも告白することは大切なのだと思わされます。

5節の後半から聖書の民であるイスラエルの民の歴史の降り返りが記されています。「わたしの先祖は、滅びゆく一アラム人であり、わずかな人を伴ってエジプトに下り、そこに寄留しました。しかしそこで、強くて数の多い、大いなる国民になりました。」

イスラエルの民は、族長であるヤコブから始まりました。ちなみにイスラエルという名前には「神と闘う人」との意味があります。ヤコブが一晩中神と相撲をとって祝福を得たということに由来しています。

信仰の父であるアブラハム、その子イサク、そしてヤコブです。「滅びゆく一アラム人」ということば、「滅びゆく」とは、「さすらう、消えゆく」という意味があります。「はかなさ」を思います。つまり強い民ではなく、小さな民であったということです。この民を苦難の中で導いてくださったのがイスラエルの神でした。神は人を創造し、その民、また一人一人の人生を導いてくださる方なのです。ヤコブの祖母、祖父サラとアブラハムはアラム地方のハランから神の声を聞いて旅だったのです。それが「わたしの先祖は、滅びゆく一アラム人であり、」ということばから示され、子孫のヨセフからエジプトに住み出し、ヤコブも晩年ヨセフの住むエジプトに移住しました。「わずかな人を伴ってエジプト

に下り、そこに寄留しました。」その強国エジプトで数の少なかったイスラエルの民は、「強くて数の多い、大いなる国民になりました。」という歴史理解です。しかし、強国エジプトで小さなイスラエルの民は、辛酸、苦しみを受け続けました。

「6:エジプト人はこのわたしたちを虐げ、苦しめ、重労働を課しました。

7:わたしたちが先祖の神、主に助けを求めると、主はわたしたちの声を聞き、わたしたちの受けた苦しみと労苦と虐げを御覧になり、

8:力ある御手と御腕を伸ばし、大いなる恐るべきこととするしと奇跡をもってわたしたちをエジプトから導き出し、

9:この所に導き入れて乳と蜜の流れるこの土地を与えられました。」とあります。ここにいる私たちも歩いて来た人生の歴史があり今ここにいます。

神さまはイスラエルの指導者モーセを立てて救いを実行されたのです。

イスラエルの民は、この自分たちの苦難と救いの歴史を振り返ることを習わしとして来たのです。それは現代でもイスラエルの国では行われているのです。ちなみに「乳と蜜の流れるこの土地」と聞けば、どんなに豊かな土地かと思いますが、現在のイスラエル地方は、古代は実際は砂漠や荒地だったのです。

しかし、奴隷であったエジプトと比べれば、「乳と蜜の流れるこの土地」だったのです。人々はその土地で感謝と喜びを経験したのです。本来イスラエルの民は、知恵にすぐれていましてユダヤ教を信じるユダヤ人とも呼ばれ、定住する土地が与えられて、その後の歴史の中で紀元70年頃にローマ帝国の軍隊の攻撃で民が世界各地に離散しなければならない苦難を経験します。また第二次世界大戦時には、ドイツのナチスヒトラーによる600万人とも言われる大量虐殺の苦難を経験することになりました。しかし現代には古代に住んでいた土地に帰って来て国をつくり、砂漠を緑の土地に変えるということに成功して来たのです。ただイスラエル人が昔の土地に帰って来たことによって、それまで長年その土地に住んでいたアラブの貧しい人々の土地が奪われるということが起こって来たことは、未来に向けての大きな課題となっていることは忘れてはならないのだと思います。

10節、11節は、収穫を感謝する時に、古代のイスラエルの人たちが祈った告白の祈りです。

「10:わたしは、主が与えられた地の実りの初物を、今、ここに持って参りました。」あなたはそれから、あなたの神、主の前にそれを供え、あなたの神、主の前にひれ伏し、

11:あなたの神、主があなたとあなたの家族に与えられたすべての賜物

を、レビ人およびあなたの中に住んでいる寄留者と共に喜び祝いなさい。」と。収穫には課題があるとうことです。

「レビ人およびあなたの中に住んでいる寄留者と共に喜び祝いなさい。」

「レビ人」収穫物を得るための土地を持っていない祭司たち、またその土地に寄留している、住んでいる他国の人たち共に喜び祝いなさい。」との神の教えです。

過去を振り返り、神から善きものを与えられた人たちは、感謝すると共に、それを自分だけのものにするのではなく、地球の今後、また未来に生きる人々からの問いかけを思い、苦しんでいる人たちと分け合い共に喜ぶという生き方の大切さを思います。

主の平安を祈ります。